

令和2年7月7日 市長定例記者会見 会見録

【司会】

本日は、報告を1件させていただきます。市長、よろしくお願いいたします。

【市長】

まずは冒頭、5日の日に吉田町で起きた火災について改めて申し上げます。

ご承知のとおり3名の消防職員と1名の警察官の尊い命が倉庫火災の現場で亡くなるということになってしまいました。心より哀悼の意を表したいと申します。

有能な職員を3名亡くしたということは、本当に残念無念でありますし、ご家族の心情を察すると本当に悲しい、まさに痛恨の極みであります。倉庫火災という特殊性の中で、このことを防ぐことができなかったのか、3人の尊い命に替えても私たちは、きちっとこの検証をしたうえで再発防止に努めなければいけないと心を新たにしておるところであります。重ねて哀悼の意を表したいと思います。そして、今入ってきた情報ですけれども、また線状降水帯の中で九州が大変なことになっております。先週末の球磨川に続いて、筑後川も、今、氾濫したという情報が入ってまいりました。

二つほど私から、市民の皆さんにメッセージを伝えたいと思います。おかげさまでライブ配信を、今日もしておって、徐々にこれを直接ご覧になっている市民の皆さんも増えているということであり、また、記者の皆さんには、大変恐縮ですけれども、2点、私から改めてお願いを申し上げます。

まずは、大雨に対する危機感を持ってほしいということであり、現在、静岡市には、警戒レベル4に相当する土砂災害警戒情報が発表されております。いつ土砂災害が起こってもおかしくないという状況だと理解をしてください。静岡市ではこの情報を受け、葵区の井川地区、梅ヶ島地区、大川地区、大河内地区、清沢地区、そして玉川地区に避難勧告、清水区の両河内地区に避難準備、高齢者等避難開始の情報を発表しています。九州の一連の大雨では、既に50名以上の尊い命が犠牲になったと伺っております。私どもは、これを未然に防いでいかなければなりません。本市では、大雨や避難に関する情報を、手段として緊急速報メールや同報無線、あるいは頒布中の防災ラジオ、あるいはLINEなど、さまざまな手段を使って情報発信しております。どうか市民の皆さんには、それらの情報に注意をいただき、大雨に対する備えを改めて確認をしていただきたいと思います。突然発生する地震とは異なって、大雨は事前に情報が入手できますので、準備ができます。どうぞ、市民の皆さんは、自分の地域に合ったより適切な避難行動について考えていただきたいと思います。お願いを申し上げます。

二つ目は、コロナについての危機感。もう一度市民の皆さんに持っていただきたいということであり、5月1日以来、2カ月が経過して、本市でも新型コロナウイルスの感染症の患者さんが4名発生してしまいました。油断大敵であります。報道等でご承知のとおり、東京では陽性者が5日連続で100人を超えております。あるいは、隣県の神奈川県でも5日の日に20名の患者さんが発生するなど、全国的に再び感染の拡大の傾向が見られ、静岡市内でも感染のリスクが高まっているという事は否めません。市民の皆さんには、感染者が増えている地域への往来には十分注意をして

いただきたいと思いをします。

今日もバッジを着けておりますけども、暮らしのライフを取り戻す、社会経済活動の回復を目指す取り組みが動き出しております。7月1日からは、静岡市は、いいねえスタンプラリーが始まりましたが、すでに 10カ所全てのポイントを回り終わった方もいらっしゃると思います。この活発になろうとしている静岡市内、県内の交流、社会活動の再開を止めないためにも、感染しない、感染させないという慎重な行動を一人一人の市民の皆さんに呼び掛けたいというふうに思います。そして、感染予防防止と社会経済活動の活性化、その両立しがたい二つのテーマを皆さんの適切な行動によって、何とか維持していきたいとお願いをいたします。

なお、静岡市ではPCR検査センターの開設などにより、検査・医療体制を充実し、感染拡大に備えております。ご自分、あるいはご家族に少しでも感染が疑われるようなことがあれば、いま一度、静岡市新型コロナなんでも相談ダイヤルを設置しておりますので、そこでご相談をしてください。新しい生活様式にのっとった生活を送ること、このことが大切であります。

最後に、もう一つお願いであります。どれだけご自分が気を付けていても、誰もが新型コロナウイルスの感染症の患者になり得ます。新聞やテレビなど報道機関の皆さんも懸命にその啓発に努める特集を組んでいただいておりますが、いまだに患者さんに対する心ない誹謗や中傷があるということもとても悲しいことであります。ご自身が新型コロナウイルス感染症にかかったということを想定して、イメージして、いま一度、もしかかってしまったらその患者さんを受け入れていただきたい。誹謗や中傷は、絶対にやめていただきたい、そのこともお願いを申し上げます。私からは以上2点、危機管理の重大性という観点から、ライブ配信をご覧になっている市民の皆さんにお願いを呼び掛けたいと思いをします。以上です。ありがとうございました。

それでは、今日の案件、報告、視覚障害のある方への配慮についてに話題を移らせていただきます。先月25日の新聞紙上で、途切れた点字ブロックの放置という記事が掲載をされました。この記事に私は目を通し大いに反省をしました。本来ならば、静岡市役所の職員、あるいは我々がもっと事前に気付き、動いていかなければいけない。だけど私はこのことを知りませんでした。新聞によって知りました。大いに反省をしております。静岡庁舎は昭和 61 年、1986 年に建設され、その当時の法令を元に点字ブロックが設置されたものでありますが、その後に施行されたバリアフリー法の趣旨にのっとった改修が行われていなかったと。点字ブロックが庁舎建設のときの状態のままであった。一方、館内案内図の点字も改修されていなかった。この認識不足というご指摘、真摯に受け止めます。SDGsの未来都市を標榜して、SDGsの推進に取り組んでいる自分たちのまちづくり、誰一人取り残さないということを何回も、私自身申し上げてきたにもかかわらず、言っていることとやっていることが違うじゃないかというふうに言われたら、返す言葉がありません。

しかしながら、このことに気付いた以上、スピード感をもってこの解決をしていかなければならないと担当課に指示をし、そして、職員もそれに応じて作業を開始してくれました。配付した資料をご覧ください。所管である財政局管財課の職員によって、点字ブロックの途切れていた部分の整備を行い、御幸通り側、青葉通り側、それぞれの入口から総合案内所までの点字ブロックを整備しました。点字などで館内を案内するマップについても、直すように手配をしております。これらは、やるべき

だったことをやるという当然のことです。何回かハンディキャップを持った方から、この改善について申し入れがあったようですが、それが文書にしてきちっと上がっていなかったということも、今後に向けての教訓にさせていただきたいというふうに思います。

この反省を踏まえ、当事者のご意見を取り入れ、より視覚に障害のある方に寄り添った環境の整備を進めるために、静岡県視覚障害者情報支援センターの方と静岡市視覚障害者協会会長に庁舎にお越しをいただいて、実際に当事者意識で現場を回っていただき、今回、いろいろアドバイスをいただいただけではなく、庁舎を今後も、どう改善していけばいいのか、さらによくしていくためには、そのようなご意見もいただきました。

その結果、例えば庁舎の入口にある館内案内図は、点字だけではなく音声で案内できる設備を導入したらどうかとか、館内案内図に備え付けられている職員を呼ぶための電話はインターホンにしたほうがいいのか、さまざまなご意見をいただきましたので、このような整備の検討も進めていきたいと思えます。さらに、市の他の施設もこの際全部見直してみたいと思えます。現在、障がいのある方が利用されている可能性のあるおよそ700、多くの施設でありますけども、700の施設について点字ブロックやスロープの設置状況などの実態調査を進めています。

今回の件を教訓に、ピンチをチャンスにするという発想で全ての市民の皆さんが利用しやすい、ユニバーサルな施設環境を整えていきたいと、ここでお約束をします。私からは以上です。

【司会】

それでは、ただいまの項目につきまして、ご質問のある方はお願いをいたします。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、幹事社質問の方に移りたいと思えます。

共同通信さん、よろしくお願ひいたします。

【共同通信】

幹事社の共同通信です。よろしくお願ひします。先月の26日にリニア中央新幹線の準備工事を巡って、静岡県の川勝知事とJR東海の金子社長の会談が行われました。知事は、会談後の報道陣の取材に対して準備工事の着手を認めない考えを改めて示しまして、2027年の開業の予定の延期は避けられない状況となっております。

一方で、静岡市は既に工事車両が通行するトンネルの工事についてJR東海と合意をしておりますが、今回の会談の結果を受けて、市長の受け止めをお聞かせいただけますでしょうか。

【市長】

今回のトップ会談について、いろんな論評もされておりますけども、私の受け止めは、まず2人が膝を突き合わせて会って、そして、思いをぶつけ合ったということに大きな意義があるというふうに理解をして受け止めております。やはり、交渉事ですので、直接会う、フェイス・トゥ・フェイスで話を進めるということが大事であります。相手の体温を感じながら、相手の目を見ながら、相手の立場を思いやりながら、お互いに自分の意見を言い合う。この積み重ねが大事なんだろうというふうに思

いますし、私どももJR東海さんはもちろん、相手のある先の交渉というのは、最初、私たち市行政と立場が違っていても、そういうトップ同士の会談を重ねることによって、合意を見いだしてまいりました。同じだと思います。これからトップ会談、実務のレベルの話、あるいは専門家会議の議論というものは並行的に深めていただくにせよ、トップ同士の会談をさらに積み重ねていただき、合意に至ることを期待しております。以上です。

【共同通信】

ありがとうございます。各社さんはいかがでしょうか。

【司会】

NHKさん、どうぞ。

【NHK】

NHKです。市長、今回もこの件はお話しされていますけれども、2027年の開業が厳しい状態になっていることについて、市長は2027年を、あるいはそれと大きく遅れない時期の開業を目指してほしいと思っていられるのか、いかがでしょうか。

【市長】

報道に接すると、事実上なんていう書き方をされていますけども、JR東海さんの方から正式にそのことは発表されておきませんので、私も今日、公式の発表の場ですので、きちっとした正式な表明があつてからのコメントにしたいと思います。

【NHK】

市長の思いとしては、2027年開業は目指されるべきということでお変わりないでしょうか。

【市長】

これもJR東海の考え方、静岡県の方、それは静岡市も含まれますけれども、水問題を中心とする環境保全に対する考え方、私どもの考え方ですね。それとの両立を得るべく、2027年という一つの節目がありますので、それに向けて努力をしていただきたいという気持ちは変わりありません。

【NHK】

相手の立場を思いやりながらということをおっしゃいましたけれども、市長、前回、相手の立場、つまり金子社長には2027年という思いがあるとおっしゃいましたが、静岡県は金子社長の立場を思いやって2027年ということを念頭に交渉に当たるべきだとお考えでしょうか。

【市長】

静岡県は、そういうことですよね。しかし、金子社長という個人ではありませんよ。それに県知事と金子社長という2人のトップの責任者としての議論の積み重ねということがやっぱり決定的に大事だというふうには、私もトップとして感じるわけですけども、静岡県の水というものに対する今までの歴史的な経緯の中での大切さを一身に背負っている知事さんと1970年代から技術立国の冠たる技術、超伝導というこのリニアを積み重ねとして背負っている金子社長、このお二人がこれから責任を持って会談を続けていただきたいということが私の切なる思いであります。

【司会】

その他いかがでしょうか。ありがとうございました。それでは、そのほか各社さんからご質問があれば、お受けしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいですか。毎日新聞さん、どうぞ。

【毎日新聞】

毎日新聞です。冒頭、田辺さんのごあいさつの中で、吉田町の火災について、防ぐことはできなかったのかを検証したうえで再発防止に取り組みたいとおっしゃっていましたが、具体的に予定があれば、教えてください。

【市長】

殉職者を出してしまったのは、昭和55年のガス爆発以来のことですので、本当に重大なことであります。ですから、このことは広域化をされた3市2町の消防の責任者として、今回、十字架を背負って消防局中心に、この再発防止への取り組みをしていきたいというふうに思っております。具体的に、今はまだ現場検証をしている状況ですので、いつからどう調査を始めるということは決めておりません。必ずこのことについては原因の究明、そして、再発の防止に向けて議論を深めていきたいと思っています。

【毎日新聞】

分かりました。ありがとうございます。

【司会】

その他はいかがですか。NHKさん、どうぞ。

【NHK】

すみません。沈痛な思いでいらっしゃるときに恐縮ですが、やはりかねてから気になることをお尋ねします。市長、今しがたもリニアについて、市行政と立場は違って相手方の立場を思いやりながら、お互い意見を言い合う積み重ねが大事だとおっしゃいましたけれども、市長、先日の市議会でもJCHOについて、議員の方からJCHOに対して上から目線で、議事録には言い放しと書かれている

という指摘をされました。また、直接お聞きしている発言でも、市長は市民に見えないところで自身の立場を押し付けるような威圧的で一方的な圧力を掛けていらっしゃいます。

そうした市長の言動とお互いの立場を尊重することが大事という発言と、市長はご自身の中でどう整合性を持たれているのか、この際、お聞かせいただけますか。

【市長】

相手に威圧的だと思わせてしまったとすれば、私は反省をしなければなりません。これも何度も私申し上げているところであります。しかし、自分の見識や経験の中から、自分の意見を相手に伝えるということは大事であると思いますし、相手のことを思って私も申し上げているというふうに思っております。

【NHK】

相手のことを思ってとおっしゃいましたが、私、正確な記憶と記録がありますので、ひとつ読み上げますと、市長こうおっしゃいました。「矛盾があったら追及するという姿勢の人もいるが、あなたの会社はそういう体質じゃないだろう。僕は何々さんとは友だちだよ。何々さんは、今、本部の幹部だよ。チェックが甘いと言わないといけないことになる。組織の中でやりたいことができなくなるリスクがあるよ。追及する、批判をするというスタイルでやりたいなら、フリーになったほうがいい」と。このような発言でしたが、こうしたご自身の権力や人脈を誇示して職を失わせると脅すことで、ご自分の都合の悪いものを抑え込もうとなさる姿勢は、お互いの立場を尊重するという事に合致するのでしょうか。

【司会】

申し訳ありません。失礼ながらも、ただ今のご質問は市長と記者との個人的なやり取りに関することだと思われま

【NHK】

す。大塚さん、ここで妨げるのはやめていただきたいです。

【司会】

後ほど個別に対応させていただきたいと思っておりますので、ご協力のほどよろしく申し上げます。

【NHK】

個別にこれまでお願いしても、何度お願いしても何もお答えいただけないので、ここで司会が遮るというのは、市長のイメージも傷付けると思っております。これは、市長にしかお答えいただけないことなんです。

【司会】

個人的なやり取りに関することになります。

【NHK】

重大なことです。個人的なやり取りとおっしゃいましたが、あらゆるパワハラですとか、圧力というのは個人的に密室で行われるものなんです。それを個人的なものだから、我慢しろと言っているのは、何もパワハラは解決しません。市長、お答えください。

【司会】

個人的なやり取りなこと・・・

【NHK】

市長からお言葉をいただきたいんです。今、司会からは求めていません。

【司会】

他の記者の皆さまもいらっしゃいますので、貴重な時間をここで割くというよりも、やはり後ほど個別に対応させていただきたいと思っておりますので、ご理解をお願いいたします。

【NHK】

課長、ちょっとこういったことはやめていただけませんか。ちょっとずるいんじゃないですか。私、事前に申し上げたはずですが、事前にご説明いただけるのであれば、私いつでも伺いますと。それに対して、お答えいただかなかったんですから、私はここで聞かざるを得ません。

【司会】

したがって、ただいま個別に対応させていただきますというご回答をさせていただきました。

【NHK】

個別に対応するというのはどういうことですか。別途、市長に1対1で説明をしていただける機会を設けていただけるんですか、この圧力について。

【市長】

記者、私もこの公式の会見の場でこのような質問をするということを疑問に思っています。個人的な会話の中でやり取りがあった。そして、ご指摘されたことには、私、2人の会話の中で頭を下げて謝罪をし、そして、撤回をしたつもりであります。

【NHK】

撤回というのは伺っていません、この発言については。これまでも、例えば半年ほど前に、国会議員の方では、政治記事のコピーに「出入り禁止」とか、「くず」などという評価を個人的に書き込んで張り出したことで与野党から猛批判を浴びるということがありましたし、5年ほど前には、自民党の中で議員が、「マスコミを懲らしめるにはスポンサーに圧力をかければいい」と発言して、これも処分されたということがありました。震災の年には、復興大臣が、「今の言葉はオフレコです。書いたら、その社はもう終わりだから」と発言して、2日後にはもう辞任を余儀なくされました。こうした過去に問題になった 政治家の言動と比べて、市長の発言は問題視されるに値しない、穏当なものなんでしょうか。

【戦略広報監】

すいません。ちょっと横から・・・

【NHK】

いえ、結構です。これは、市長にしかお答えいただけないことです。

【戦略広報監】

ごめんなさい。公式な場での発言に関しては、発言としてその説明責任も負うべきであるというふうに思います。ただ、人の言葉は相手がどう受け止めるかということに関しては、同じ言葉も受け止め方によって違ってくるということは起こり得ることだと思いますし、今のお話はどういうふうに受け止められたかというのは、記者の受け止めがそうであったということでは、それが事実だったかどうかということの確認が取れません。それに関して、今、こうした公式の場でお話をするということに関しては適切ではないというふうに思います。これに関して、他の記者の皆さん、ここでやるべきだと思われる方がいらっしゃいますか。

【NHK】

私が聞いているんです。他の記者に発言を妨げるとか、そういった申し合わせはこの記者クラブありません。

【戦略広報監】

ですので、この件に関してこの場で今いったん終わらせてください。もし、この記者会見という場でやる必要があることでしたら、また改めてきちっとお答えする場を作りたいと思います。ということで、ご理解いただけますか。

【NHK】

では、要は、静岡市役所はパワハラや圧力については、個人的な場だということで全て問題視しない、公には説明しないという、そういう宣言でしょうか。

【戦略広報監】

そういうことではないです。

【NHK】

同じことです。

【戦略広報監】

事実関係を確認した上でしかお答えをすることができないので、いったんここでは終わりにさせていただきますか。

【NHK】

ですから、事実が違う、あるいは私の受け止めが違うというのであれば、それを市長にご説明いただきたいんです。

【戦略広報監】

ですので、これを今この場で時間を大きく割いてやるということではなく、きちっと必要であれば、お時間を別で取りますし、公式の場での回答が必要であれば、公式の場できちっと回答を出させていただきますので、それをこの時間で多大なる時間を取って、皆さんの貴重な時間を取ってやらせていただくというのは、本来やるべきスタイルではないと思いますので、これに関してご理解をいただきたいということです。お答えしないと言っているわけではないです。

【NHK】

多大なる時間を取るというのは、このように妨げるからではないでしょうか。市長は、こうもおっしゃいました。

【戦略広報監】

ですので・・・

【NHK】

ただ、これは報道にも関することです。他の記者にも、関心を持っているかどうかは別にして、関係することです。市長はこうおっしゃいました。「矢継ぎ早に二の矢、三の矢で追求してほしくないわけ。あなたの問題提起は、組織防衛にもものすごい労力が伴う。談合をやっていて賄賂を不正にもらっていたという話なら鋭く追求してもいいよ。けど、そうではないことで、ここも問題だ、あそこも問題だというのは、私の気持ちをすごく萎えさせる、僕の気持ちを逆なです。あそこでああいうことを言っちゃいけないの。言い訳はいらない」と。このように妨害するような、押さえつけるような発言をされま

した。これは市長、公人としてどう思っただらっしゃるんですか。

【市長】

そのときは、公人としてやり取りをしていないじゃないですか。

【NHK】

公人です。市長は、執務時間中に市長のオフィスというこれ以上ないオフィシャルの場でおっしゃっています。

【戦略広報監】

これ、いったん、本当にこういった場でこの形でやるのが正しいですか。

【NHK】

私は、記者会見でこのやり取りをすることを私も望んでなかったんです。ですから、事務方を通じて、この発言の真意を確認したいと再三お願いして、それは1対1の面談でも、メールでも、電話でも、書面でも、何でもいいと申し上げてきたのに、今日これまで一切お答えいただいてないんです。ですから、この場で聞かざるを得ないということは、事前に私、申し訳ございませんが、根回しでもないですけど、課長にも局長にも申し上げました。その上で回答がなかったんです。市長、お答えいただけますか。

【戦略広報監】

ですが・・・

【NHK】

柴山さんがお話しになるから、どんどん時間が延びるんです。市長にお答えいただければ、それで済む話ですので。

【市長】

申し訳ありませんでした。お詫びを申し上げます。

【NHK】

どういう真意でおっしゃったんですか。

【市長】

記者と今まで話したこと、どういう状況でお話をしたにせよ、たいへん傷付けてしまったことをお詫び申し上げます。

【NHK】

「ああいうことを言っちゃいけないの。言い訳はいらない」と。「言い訳はいらない」というのは、上司・部下の関係でもまず聞かない発言ですね。

【戦略広報監】

すいません。これ以上必要ですか。

【NHK】

はい。市長の真意がまだ分かりません、私。

【戦略広報監】

それは、記者の個人の受け止めですよ。感覚の問題ですよ。

【市長公室長】

公の場でのその発言はいかなものなんでしょうか、記者。いったん止めていただけますか。

【NHK】

では、お答えいただけるんですか。別途面会なり・・・

【市長公室長】

必要があれば、その対応をいたしますということを私たちは申し上げております。この場では、いったん切らせてください。

【NHK】

必要があります。では、これまでご説明をいただいておりますが、改めて説明をしていただける場を設定していただけるんですか。公室長がそう約束していただけるのであれば・・・

【市長公室長】

必要であればということをお話ししているだけです。

【NHK】

必要です。

【市長公室長】

それは、私たちが考えます。

【NHK】

副市長、いかがでしょう。副市長が中に入って、必ず市長が説明する場を設けると。それは1対1でも構いません。約束していただけるのであれば、私この場は収めます。いかがでしょうか。

【小長谷副市長】

そのことも含めて、また検討させていただきます。

【NHK】

検討でなくて、お約束いただけますか。

【小長谷副市長】

はい。

【NHK】

お約束いただけるということですね。

【小長谷副市長】

はい。

【NHK】

わかりました。ありがとうございます。

【司会】

失礼いたしました。その他にご質問がある方は、いらっしゃいますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは、本日の定例記者会見を終了させていただきます。

次回は、7月21日火曜日となります。本日は、ありがとうございました。